

母性看護援助論

必修 開講年次：3年次前期 科目区分：演習 単位：1単位 講義時間：30時間

■**科目のねらい**：女性のライフサイクル各期における生理的变化と特徴的な疾病・治療、および対象の生活上の課題を理解し、家族を含めた基本的看護援助について学修する。

- 到達目標**：①女性に特有な生理的变化と疾病が理解できる。
 ②思春期・成熟期・更年期女性に必要な看護が理解できる。
 ③妊産褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的特徴、および必要な看護が理解できる。
 ④妊産褥婦および新生児を取り巻く家族に必要な看護が理解できる。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎山本 真由美・渡邊 由加利・石引 かすみ・菅原 照夫

■**授業計画・内容**：

第1回	思春期・成熟期女性の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (月経異常・性感染症月経困難症・子宮筋腫・生殖器腫瘍など)	}	(菅原照夫)
第2回	更年期女性の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (更年期障害・女性生殖器疾患など)		
第3回	妊娠期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (ハイリスク妊娠・妊娠期感染症・妊娠疾患・多胎妊娠・妊娠持続期間の異常・子宮外妊娠など)		
第4回	分娩期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (分娩の三要素の異常・分娩時損傷・異常出血・産科処置と産科手術など)		
第5回	産褥期の生理的变化と特徴的な疾病・治療 (子宮復古不全・産褥期の発熱・産褥血栓症・精神障害など)	}	(山本真由美)
第6回	思春期・成熟期女性の看護：月経・人工妊娠中絶・不妊など 更年期女性の看護：更年期障害・骨粗鬆症など		
第7・8回	妊娠期の看護 (1)：妊婦と胎児の健康状態のアセスメント (2)：妊婦の保健相談・異常妊婦の看護 (妊娠高血圧症候群・切迫流産など)	}	(渡邊由加利)
第9・10回	分娩期の看護 (1)：産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2)：分娩第1期から第4期の看護 (含、帝王切開)		
第11・12回	産褥期の看護 (1)：褥婦の健康状態のアセスメント (2)：身体の回復・育児・家族関係再構築に関する看護	}	(山本真由美)
第13・14回	新生児期の看護 (1)：新生児の健康状態のアセスメント (2)：出生直後・出生後から退院時・1ヶ月健診の看護		
第15回	産褥期・新生児期の看護および看護過程		(山本真由美)

■**教科書**：有森直子編：「母性看護学Ⅱ 周産期各論」、(医歯薬出版、2015)

■**参考文献**：有森直子編：「母性看護学Ⅰ 概論」、(医歯薬出版、2016)

- 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学〔1〕」、(医学書院、2012)
 森恵美他：「系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学〔2〕」、(医学書院、2016)
 横尾京子他編：「ナーシンググラフィカ 母性看護学① 母性看護実践の基本 (第3版)」、(メディカ出版、2016)
 太田操編：「ウエルネス看護診断にもとづく看護過程 (第2版)」、(医歯薬出版、2009)
 大平光子他編：「母性看護学Ⅱ：マタニティサイクル」、(南江堂、2012)
 佐瀬正勝他編：「ウエルネスからみた母性看護過程+病態関連図 (第3版)」、(医学書院、2016)

■**成績評価基準と方法**：

- ・ 授業への参加状況および定期試験による総合評価。
- ・ 単位修得には総合評価60点以上が必要となる。なお、出席時間が授業時間の2/3に満たない場合、成績評価の対象とはならない。

評価方法	到達目標				評価基準	評価割合 (%)
	①	②	③	④		
定期試験	◎	◎	◎	◎	内容の理解	①30 ②-④70
授業内レポート・課題	○	○	○	○	ポイントの理解	総合評価に加味する
授業態度	○	○	○	○	欠席した場合は減点	

◎：より重視する ○：重視する

■**関連科目**：人間発達援助論 母性看護学概論 小児看護援助論 母性看護技術論 母性看護学臨地実習

■**その他 (学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：

- ・ 既習科目との関連性を確認し、これまでの学修成果を本科目に活かしましょう。
- ・ 女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進と、「生命の誕生」を守り支えるために必要な基本的知識を確実に修得しましょう。